



編集・発行 山見乃勢能  
山見乃勢能 宗広 報部  
〒563-0132  
大阪府豊能郡野間中  
電話 072-739-0329  
FAX 072-739-2883

### 予定は未定

新實信導

「予定は未定であり決定ではない。暫し変更がある」

高校時代、剣道部顧問Y先生の口癖であった。

剣道部に属していた私は一年三六五日、練習か遠征試合に明け暮れていた。

そのY先生は、担任を持つわけでもなく保健担当の先生であった。先生は大学時代、東京教育大学（現筑波大）のハンドボール部で活躍し国体出場選手であったそうだ。

なぜY先生が剣道部の顧問なのかという疑問があった。その昔、剣道部は荒れており、他校生徒との喧嘩が絶えないような部活動で

あった。それを見かねたY先生が顧問となり指導にあたったという。

剣道部には学校で問題を起こしY先生あずかりとされた生徒がいて、Y先生がまさに最後の砦であった。先生のおかげで無事卒業できた生徒も多かった。

剣道部の練習内容は準備体操と基礎トレーニングが約一時間、防具を着けて打ち込み三〇分、練習試合三〇分の計二時間が基本的な練習であった。打ち込みのあと、Y先生が来るといつも変わった指導が始まる。校外に出て河川敷をランニング。足下が砂で滑り思うように走れない。まして胴着に袴を着け、片手に竹刀を持ちながら走る。端から

見れば歩いていっているようにしかみえない。サプライズトレーニングの前には、きまつて冒頭の「予定は未定であり…」と言われたものであった。

練習とは、毎日同じことの繰り返しである。ややもすると練習は苦しみしか感じなくなる。

そこで思うのだが、お釈迦さまの教えは私たちが苦しみをどう乗り越えるかと

考えると成り立っている。生きる上で繰り返し味わう様々な苦しみを生苦というが、この生苦を知りその上で苦をどう変えるかを考えながら体験し、行動することで、生苦が苦ではなくなるのである。

今思えば、練習という苦しみを変えるために、Y先生はサプライズトレーニングをあえておこなっていたのかもしれない。

### 《法華經に学ぶ現代》

或は己身を説き

或は他身を説き

或は己身を示し

或は他身を示す

俺のいうこと

よく聞けよ

残す財産ないけれど

言葉くらは残しておける

他人の振り見て

我が振り直せ

俺がこの世を去ったなら

俺の背中を

思い出せ

云うほど

広くはないけれど

それでも

頼りにしてたはず

### 【9月の主な行事】

☆八朔祭祈禱 6日(日)

9時～16時

ご祈禱お申込みの方には

開金運「八朔田之美守」授与

★月例祈願法要 15日(火)13時

★秋季彼岸会 22日(火)13時

★月例祈願法要 22日(火)15時

★写経会・清掃の日

星嶺演奏会・星嶺茶論

いづれも中止します

※ご祈禱・ご回向・兜矢等

のお申し込みは、窓口の

他郵便・FAX・メール

でも受付しております

### 【10月の行事予定】

★月例祈願法要 15日(木)13時

★妙見さまの御縁日祈願会

★鷗様月例祭 22日(木)15時

★火伏守札を授与します

★写経会・清掃の日ならびに

星嶺演奏会・星嶺茶論は中止

※出合いの鐘巡り・登山力

ド押印は中止

※法要など昇堂の時はマス

ク・人数制限等、感染拡

大防止のご協力をお願い

申し上げます

※社会情勢により予定は変

更することもあります

※送迎車の運行は、当面

見合わせています

### ママシの一撃

相川 大輔

先日、小学一年生の次男がママシにかまれた。お寺での法要が終わり、来客の方々をお送りしてホッとしていた時のことだ。

「ママシにかまれた！」と次男が手を抑えながらかけてきた。

「どんな色のへびだった？」

「茶色で銭形模様のやつ！」

それは確かにママシだ。次男は昆虫や爬虫類、特にへびが好きでよく図鑑やDVDを鑑賞しているの間違いないだろう。

すぐに救急車を呼んで病院へ向かった。

病院への道中、かまれた部位が腫れて痛んできたようで、泣きながら、

「お父さんの言うとおりに、もうママシは触りません。いい子になります」

「もうへびは嫌い！」

などと反省の弁を続けた。

私たちは次男のように、危険なことやっつけてはいけないことと分かってはいながら、好奇心や欲心からやっつけてしまうことが多々ある。

ここで重要なのは、やっつけてしまった後にその経験から何に気づくかである。

法華経の中でも、毒を誤って飲んでしまい正気を失ってしまった子供たちに解毒薬を飲ませるため、父親が自分が亡くなったと思わせて子供たちに正気を取り戻させる場面があるが、子供たちに自身の死を伝えるところというのは、まさに「愛の一撃」といえる。

この一撃により子供たちは正気に返り父親の用意した解毒薬を飲めばいいことを理解するのだ。

私たちもまた日常の様々な経験から、久遠の仏の慈悲に気付きそれに応えるべく行動したいものである。

次男はといえば「ママシの一撃」をもらったが、十

本紙『法華経に学ぶ現代』欄解説の筆者である「純智庵」こと中村潤一上人は、先月4日霊山浄土へ旅立たれました。ここに、法名「法秀院日学上人」のご生前の法恩に対し深甚の感謝の意を表しますとともに増円妙道をお祈り申し上げます。

なお、「法華経に学ぶ

### ☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

現代」は、すでに頂戴致しております原稿をすべて掲載するまで続けてまいりたく、読者の皆様には引き続き軽妙な筆使いと、時にスパイスのたっぷりきいた法華経解釈を味わい、信仰生活の糧として戴きますれば、何よりの報恩供養になることと存じます。

K.J

五センチほどの子どものママシだったため、毒の量も少なく、2週間で完治することができて、感謝感謝である。

その次男、母親から快気祝に何がほしいかを聞かれたところ、

「キングコブラのぬいぐるみ！」

「……」

もう二度とママシを触るうとしないことを願うばかりだ。

**俳壇** (みのり)

地下街を出てまた開く白日傘  
 プランターの青葉しおれる秋の昼  
 落ち蟬に触るるやついとび立てり  
 杉大樹小鳥の声や秋来たる  
 手を握りし再会成らず秋の風

### 法華経茶話Ⅱ

#### 根本分裂①

釈尊の入滅後、弟子たちはそれぞれに教えを研究しその教義の部派を形成し、お互いに論争しながら教団をつくっていきました。当時の教団は長老クラスのグループ（上座部）と若者のグループ（大衆部）に分かれていました。ある時、この二つが分裂する事件が起きます。教団が二つに割れてしまったので、根本分裂と呼ばれます。その最大の原因は「一般の信者からお金をもらうべきか否か」の論争にありました。原始仏教では無一文で修行をするのが基本ですが、それでも食事だけは必要なので僧侶は托鉢を行っていました。その際に、浄財を寄付する信者もいました。浄財であるから僧侶は受け取りを拒否できなかつたのです。浄財には税金もかかりません。こうして教団にはだんだんお金が貯まっていきました。